

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【泰平小】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	(1)基礎学力の定着に向けて、粘り強く学習に取り組むと共に自ら学習を調整する資質・能力 (2)根拠をもって自分の考えを表現したり、よりよく課題を解決しようとしたりする資質・能力	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)ー①国語・算数のモジュールの時間を各30回程度設定し、個に応じて「学習ソフト」や書き込み式ドリル等を用いて、繰り返し学習に取り組む。【週に2回】 (1)ー②何ができたのか、どうしてできたのか等、児童自らが学びを振り返ることができるようにする。【毎時間】 (2)探求的な学びの充実に向け、「課題の設定～まとめ・表現」のスパイラルを繰り返す学習過程を意識しながら、児童が根拠をもって学習に取り組めるようにする。その際、「学びのコンパス」の4つの柱を意識する。【各単元】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 結果提供(2月)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	・概ね良好な結果であったが、国語の「引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題に課題が見られた。解答累計をみると、正確に引用することや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にし、区別して書くことができていない児童が多かった。算数の「単位数当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解しているかをみる」問題に課題が見られた。解答累計をみると、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について理解できていない児童が多かった。 ・自ら学習を調整する資質・能力に係る項目や自分の考えを表現したり、よりよく課題を解決しようとしたりする資質・能力に係る項目に対し、9割近い児童が肯定的回答であった。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	・自分の考えを引用するなど他者の考えを区別することなく、表現することが多い。 ・問題を理解したり、自分の考えを表現したりするときに図やグラフなどを用いて考えられる児童が少ない。 ・多くの児童が、自ら学習を調整しようとしたり、よりよく課題を解決しようとしたりしている。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	学力向上策(1)(2)ともに、実施することができている。(2)については、学校課題研修と関連させながら、適宜教職員研修を実施し、共通理解を図って進めている。(1)ー①については、知識・技能の定着を図るだけでなく、なぜそのような答えになるのかを考えさせるよう指導していく。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	(変更なし)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

ざらざら(楕円)

調査結果分析(2月)

児童生徒の
学力の向上

調査結果分析(7月)

中間評価(9月)

教育研究所